

地域にはばたく市民パワー!

ところざわ倶楽部「広場」

所沢市民大学修了者の会 広報紙

2011 年 1 月号 (第 35 号)

発行責任者 加曾利 厚雄



荒幡富士から見た夜明けのスカイツリー

藤澤豊彦氏

倶楽部の基盤はサークルの活発な活動と横の連携

新年明けましておめでとうございます。

既にご案内のとおり、「ところざわ倶楽部」は、11 月に第 4 期として新体制が発足致しました。

早いもので、市民大学第 14 期生の修了後に立ち上がった本倶楽部も 4 年目に入ったこととなります。1、2 期の佐藤八郎会長、3 期の山田武会長が地歩を固め、昨年加曾利厚雄会長にバトンタッチされ、倶楽部の運営方法も検討の上、サークルの人的つながりを重視し、サークルの良き面を取り入れてゆこう

とするものです。併せて連絡方法の簡素化で、連絡ミスが少なくなるのではないかと期待しております。

しかしながら、新体制と新しい運営方法の同時改定ですので、なかなか軌道に乗りきれないのが現状です。理事一同努力してまいります。皆様のご協力が何よりですので宜しくお願い致します。

なお、サークル代表理事は、例会等で『広場』などの連絡物が届いていない会員の有無をご確認の上、申し訳ございませんが、総務担当理事又は広報担当理事まで御連絡頂きたいと存じます。

副会長(総務部長) 海老沢 愛之助

ホームページを開設

サークル代表並びに理事のご協力により、『ところざわ倶楽部』のホームページが開設されました。

ホームページへのアクセスは、ウェブ・サイト上の検索欄に『ところざわ倶楽部』と入力し検索してください。また、ところざわ倶楽部をダブル・クォートで挟むと(“ところざわ倶楽部”)同名のものしかヒットしませんので、容易に検索できます。ぜひ、アクセスしてみてください。

広報部より (製作: 甲田理事)

【ところざわ倶楽部公開講演会】

羅 敏鎮 先生講演「どうなる日中関係」1月17日（月）いよいよ開催！



1月17日（月）14時より、羅敏鎮 東京経済大学教授をお招きして、小手指公民館分館で公開講演会が開催されます。

日中は歴史認識、尖閣諸島問題、経済水域問題などで対立しつつも、貿易相手国としてはお互い1位、2位の関係にあり、経済関係では

切っても切れない間柄になっています。

羅先生は、市民大学14期の講師として「中国の台頭と日本の対応」、「インド経済の実情と日本の機会」、「日米同盟と東アジア共同体」というテーマで3回にわたり講義され、好評を博しました。

会員の皆さん、是非この機会に出席され、気になる「日中関係」について考えてみてください。

講演会に先立ち、12月7日、国分寺の東京経済大学にある羅先生の研究室を訪ね、インタビュー。最近の中国についての本音を語って頂きました。

まず、「日本人の中国観はマスコミに影響され過ぎてい

て、真実の中国を見ていない。日本基準で中国を見ている。アメリカ等外国から見ると非常に偏向している。問題になった中国脅威論はアメリカにもあるが、中国崩壊論は無い」と述べられ、日本でしばしば話題となる中国の分裂、崩壊論について「中国は崩壊しない」と断言されました。また、共産党支配についても日本人が思っているほど国民は反対していないそうで、むしろ、「あの毛沢東時代には戻りたくない、多少の格差があっても、今の生活を維持したい」というのが実感のようです。政府もよく理解しており、「貧しく、遅れている地域には経済援助、インフラ整備を行い、地方の住民は感謝している。市場経済化が進み、競争主義社会になっていて、地域政府間の競争が激しく、GDP、業績で評価され、行政官は出世競争をしている。民間も同じである。」というのが本当の中国の現状だそうです。

羅先生は、「日本のマスコミは一方向的に中国の官僚の腐敗、環境問題の遅れ、格差を問題にするが、本当の中国人の努力している姿を見てほしい。」と結ばれました。

羅先生の講演、乞うご期待！ (広報 池田)

3月度事業の予告

サークルとところざわ倶楽部の合同企画

「郊外都市“所沢”は生き残れるか」

傍聴席 本間 滋

この度、新会長の加曾利さんから、平成23年は所沢市議選や市長選もあるし、3月の合同企画は「傍聴席」を想定しているので、よろしく願いしたいというご要請がありました。

サークル「傍聴席」は、日頃から所沢市の市議会や行政をウォッチしていますので、このご要請を受けようということになり、気心の行政学者で所沢市在住の藤澤豊彦氏に相談券を協力をお願いしました。

廣瀬先生が市民大学の16期と18期で「地方自治」講座をご担当頂いており、私たちの少人数講座にも受け止めて頂き、有志の皆さんも入っての年末年始まで、表題のような「企画の切り口」が決まりました。

但し現時点では、これはあくまでも「切り口」段階であって、内容や構成はこれから詰めるということになります。倶楽部の企画担当の皆さんのお力添えをお願いしからの、とりあえずの報告とさせていただきます。

なお、開催日は広瀬先生の都合などにより3月12日（土）を予定しています。

皆様の参加をお待ちしています。



所沢からスカイツリーが見えるか

多摩湖の橋からスカイツリーが見えると気になったのは2か月以上前の話である。今では、散歩する人の目的となり、話題ともなっている。

スカイツリーの方向を見ながら歩いていると、「スカイツリーはどこですか」と聞かれることもしばしばである。晴れていることが条件だが、雨上がりの日、風のある日などはくっきり見える。

果たして、所沢の他の場所からも見えるか。

まず市役所行き、8階のロビーから眺めると多摩湖よりも大きく高く見えた。ただ、ガラス越しなので良写真は撮るのが難しいだろう。狭山湖の堤防からも、荒幡の菊水亭からも見える。

1頁掲載の写真は、藤澤豊彦氏が12月下旬の夜明けに、荒幡富士山頂から撮影したものである。

結論として、表題の「所沢からスカイツリーが見えるか」に対する回答は「良く見える」だったが、さらに遠い「比良の丘」から見えるか、「日計街の高層ビルの屋上」からはどう見えるか、意のある方写真で撮って見せて頂きたいものです。

皆でホームページに掲載しましょう。

(加曾利 記)

遊ぶ！ 学ぶ！ サークル活動レポート

【歴史散策クラブ】

久米の水天宮

大河原 功

歴史散策クラブは、今年も新たな発見と感動をもとめ、地域の歴史・文化の学びを中心とした「ところざわ再発見」の活動を進めてまいります。

社寺で行われる祭事は、私たちの生活に深いかわりを持ってきました。そこで当サークルは「久米の初水天宮」詣で、私たちと祭りの関わりについて理解を深めることにしました。

さて、水天宮の由来はいつ頃からでしょうか。今から約700年前、壇ノ浦の合戦に遡り、入水した安徳天皇・二位の尼を筑後川の辺に祀ったことが起源といわれています。その後、現在の福岡県久留米市に本宮が祀られました。祭神は天御中主神、安徳天皇、建礼門院、二位の尼を祀っています。

久米の水天宮は、久留米市の水天宮を分祀したもので、祭神は安徳天皇です。八幡神社境内の南の台地に古くから鎮祭し、もとは真言宗仏眼寺の別当で維新後は八幡神社の摂社となっています。

江戸時代から水徳の神として、安産や水難除け・火難除けに霊験があるとされました。

また、河童信仰が加わり除災招福の神使とされ、人馬を水中に引き込むという属性は、千客万来商売繁盛に霊験があるとして商家に信仰されてきました。

境内の「永代講連名碑」によると、水天宮講は所沢市を中心とし埼玉県西部や東京都など10里四方にまで及び“武蔵国で日本橋の水天宮に次ぐ久米の水天宮”と称されていたようです。

妊婦は妊娠して5ヶ月目の戌の日に犬の安産にあやかり腹帯をつけるので、水天宮の縁日には晒しを持参し清めをして、お札を求めて帰る人が多かったといえます。



久米の初水天宮の賑わい

1月5日は水天宮の初縁日です。境内にはダルマ市が立ち、大勢の老若男女で今も変わらぬ賑わいでした。

会員配布資料から抜粋、出典：所沢市史、水天宮由来記（日本橋・水天宮）

【ダーツの会】

【歌舞伎よもやま話Ⅱ】

「海老蔵と團十郎」

斉藤昌宏

12月9日 中央公民館において、共立大学名誉教授近藤瑞男先生から、「海老蔵と團十郎」をテーマに、次のようなお話を伺いました。

1 江戸時代の市川家襲名は團十郎から海老蔵の順

歴代市川團十郎家は代々不幸が続き、天寿を全うした人は少ない。初代團十郎は別の歌舞伎役者に舞台上で刺殺され、享年45歳。3代目は病死で享年22歳。6代目も病死で享年22歳。8代目は自殺で享年32歳。市川家は歴代の不幸が重なり、團十郎は不吉な名前と敬遠されたように思われます。対して海老蔵は長寿の象徴であり、現代ではぴんと跳ねる姿は若々しいということで、11代目からの襲名は、海老蔵から團十郎の順となります。

2 市川家の成り立ち

甲斐武田信玄の家臣として仕えた堀越家宣を祖とした堀越重蔵は、武田家滅亡後千葉の成田に逃れたと云われ、その後江戸和泉町に住みました。初代團十郎は重蔵の長男として生まれました。

3 市川家の基礎を作った2代目團十郎

初代：演目「四天王稚立（してんのうおさなだち）」の「金時」役で体を真っ赤に塗って演じました。

2代目：初代から継承した「暫」「鳴神」を演じ「荒事」を完成させました。「荒事」は江戸歌舞伎の根幹になると共に市川家のお家芸となり、また、「助六」「矢の根」などを創演し、市川家の基礎を固める「隈取」を完成させました。

7代目：歌舞伎十八番を制定。これによって市川家の伝統芸を確立させました。

9代目：明治という時流に即応して演劇改良運動の先頭に立ち、故実を重んじた活曆物を次々と創演。新歌舞伎十八番を演じ「劇型」と云われます。明治20年天覧歌舞伎を実現させ、舞伎界の地位を高めました。

4 歌舞伎の宗家

團十郎は、歌舞伎役者として歌舞伎を演じ、古典芸能を継承、歌舞伎の正統な継承家として宗家と呼ばれます。

5 “現在の” 團十郎と海老蔵

團十郎は古典芸能の宗家としての意識を持ち、伝統芸能・歌舞伎の立派な後継者を育てて欲しい。また、海老蔵は更に芸域を広める必要があります。昨今の海老蔵の事件は人間としての未熟さ、傲慢さがあったように思われ、これを機に芸を磨き、人間性を養い、精進して欲しいと、歌舞伎を愛する先生は話を結ばれました。

【所沢の自然と農業】

多忙かつ充実した12月

高橋 起彦



わがサークルの活動こそは「ところざわ倶楽部」の活動目的に添ったもの(?)という自負をもって、環境保全を重視した農家へのボランティアを

中心に活動していますが、それにしても、12月は、多忙かつ社会的にも文化的にも充実した1ヶ月でした。

それというのも年度当初の活動計画を全て消化した上に、農業後継者による予定外イベントへの支援や、サークルメンバーの一人が参加したミュージズでの「所沢で第九を」公演の鑑賞等々、行事が続いたからです。

皆さんもご存知のとおり、12日に開催された「所沢で第九を」公演は今年28周年を迎えた伝統ある行事であり、市民大学OBも数多く参加されています。今年は市制60周年を記念した特別公演だった所為もあって、特に盛大なものになり、感動の一ときを戴きました。

7日に行った初冬の奥多摩「むかし道」ハイキングは、

天候にも恵まれ、既に盛りを過ぎたとはいえ、名残の紅葉が美しく色づく一方で落ち葉の滝があちこちに見られ、何とも言えない風情を楽しむことができました。

14日には、山口所在の支援先貸し農園「COROT」の休憩所でもある古民家で、食材等持ち込みの手作り忘年会を、囲炉裏を囲んで行いました。サークルメンバーが設置を支援した、庭の簡易ピザ釜で焼いた手作りピザを前菜とし、自作の野菜や梅酒それに漬け物、故郷の銘酒・名品、海外のお土産等々、温もりのある忘年会となり、皆さん大満足のうちにお開きとなりました。



1月の活動は落ち葉掃きが中心になりますが、1月もまた忙しい月になりそうです。今回関連のチラシを同封・添付して戴きましたのでご覧下さい。多くの会員の皆さんの参加を期待しています。

【地域の自然】

野鳥観察

- 鳥瞰図で所沢を見てみたい -

加賀美 省吾

初冬から春先までは少々寒いですが、落葉樹の葉が散り冬鳥の姿を見るのに絶好のシーズンです。毎年元日には、双眼鏡をぶら下げて中新井から自転車で中富の神明社・多聞院にお参りし、その足で三富の雑木林を、野鳥観察をしながら回っています。

小鳥を見つけるポイントは、囀りの方向もさることながら、木々の梢と落ち葉の積もった地面です。カラの類(シジュウカラ、ヒガラ、コガラ)、マヒワ、モズ、シメ、シロハラ、カシラダカ、ホオジロ、メジロ、白色斑の紋付を着たジョウビタキ、運が良ければ黄色～金色の地色に黒色網目模様のトラツグミに



ユーラシアからの迷鳥 クロジョウビタキ ♀ 撮影: 堀内 寧彦

会うことが出来ます。林の中に分け入るとこちらが小鳥を見つけるよりも彼らが人間を見つける方が遙かに早く小鳥たちは一旦飛び去りますが、そのまま静かにしていればまたすぐ近くまで戻ってきます(違う群れかも知れませんが)。

冬鳥に比べ5月から9月ごろまでの夏鳥は、木の葉に隠れて“声はすれども姿は見えず”なかなか発見できません。そこでどんな鳥か判断するのは、囀りによる聞き分けです。皆さんよくご存じのウグイスの囀りの「聞きなし」は《法、法華経》で、ホトトギスの囀りはキョッキョツ・キョッキョッキョツ、「聞きなし」は《特許許可局》。ホオジロは《一筆啓上仕り候》の外、多くの「聞きなし」を持っていますが、囀りに一番よく似たのは《丁稚鬘付け何時付けた、何時も付けんが今日付けた》だと思います。面白いのは春先から夏、少し高い山で聞かれるセンダイムシクイです。囀りはチョチョチョ・ビー、

「聞きなし」は《焼酎一杯ぐいー》です。すべての鳥に「聞きなし」があるわけではなく、むしろ少数です。見分けのポイントには色々ありますが、①スズメーハトーカラスを基準とした大きさ、②嘴・尾・翼の形、③色・模様、④飛び方、⑤声等があります。

ランチドリンク 50円割引券 「雑多ぶぶ家」新所コミセン別館前(天野ビル2階) 有効期限: 平成23年2月28日

航空公園にも沢山の野鳥が来ています。野鳥観察に出かけてみませんか。

サークル活動計画

- 各サークル1月～2月活動計画です。
- 興味がある活動には、他サークルの方も参加してみませんか。
- 参加希望者は代表者に必ず電話してください。

ダースの会 [斉藤昌宏 2998-0406]

- 1月5日(水) 定例会・学習会DVD「菅原伝授手習鏡」
「車引」「暫」鑑賞会
1月17日(月) 国立演芸場・中席鑑賞会
2月2日(水) 定例会・学習会DVD鑑賞会
2月16日(水) 課外活動・蠟梅見学

所沢の自然と農業 [渡部昇 2949-9432]

- 1月7日(金) 陽子ファーム落ち葉掃き
1月10日(月) 横山農園落ち葉掃き
1月11日(火) 定例会 / 16日(日) 峰岸農園支援
1月22日(土) 関谷農園落ち葉掃き
1月29日(土) 横山農園落ち葉掃き

アジア研究会 [小原雄二 2921-7739]

- 1月17日(月) 羅欽鎮先生の公開講演協賛、
終了後の懇親会出席。
2月16日(水) 定例会 午後13時30分～
場所：新所沢コミセン別館

地域の自然 [加茂恵三 2944-6554]

- 1月15日(土) 実験地の落ち葉掻き 9時～12時30分
1月22日(土) WABOC オオムラサキの越冬調査
10時～
1月29日(土) 落ち葉掻き (予定で変更あり)

傍聴席 [高垣輝雄 2926-7164]

- 1月12日(水) 15時～
場所：新所沢コミュニティーセンター別館
テーマ：ところざわ広報1月号を読んで・ブログ情報・
ところざわ倶楽部共催事業中間報告他

歴史散策クラブ [大河原功 2943-2004]

- 1月5日(水) 初詣・久米の水天宮例大祭
集合場所・時間：西所沢駅前 13:00
2月12日(土) 所沢の口頭・伝承
集合場所・時間：新所沢東公民館・09:30

楽悠クラブ [甲田和巳 事前連絡は不要]

- 1月18日(火) 13:15～(場) 中央公民館8・9号室
映画「菩提樹」DVD鑑賞 & 新年会 17:30～
2月8日(火) 13:15～(場) 中央公民館8.9号室
歌劇「ルチア」DVD鑑賞

ドラマティック・カンパニー [梅本 2926-8723]

- 1月は次のとおり「リチャード三世」を読み進めます。
月日＝1月8日(土)・22日(土)
時間＝10:00～12:00
場所＝新所沢コミュニティーセンター別館

地球環境に学ぶ [塚本二郎 2942-3117]

- 1月18日(火) 15時～新所沢コミセン別館5号
定例会、活動計画具体策の検討
1月29日(土) “三富落ち葉掃き”に極力参加
2月15日(火) 15時～定例会の予定

葵の会 [池田新八郎 2940-0711]

- 1月13日(木) 定例会 午後13時30分～16時
場所：新所沢コミセン別館
「源氏物語」小川達雄先生古典講座第2回
2月10日(木) 源氏物語第3回

地域の自然を考える会 [海老沢 2922-0259]

- これから以下の新体制で運営します。
会長 前岳良子・副会長 中村ノブ子
会計 広沢正巳・記録 杉浦正紀
1月25日(定例会 年間スケジュールについて)

野老澤の歴史をたのしむ会 [嶋崎 2948-7331]

- 1月12日(水) 9時35分下山口駅集合・現地10時
狭山丘陵いきふれセンター 繭玉づくり体験等。
1月20日(木) 午前10時半生涯学習推進センター101号室
定例会(年間計画など。その他)

公園を楽しむ会 [加曾利 2939-2308]

- 1月6日(木) 谷中七福神めぐり 9時所沢駅集合。
2月24日(木) 定例会 生涯学習推進センター
3月10日(木) バス旅行「水戸偕楽園梅まつり」見学
一般の方も先着順で参加可能。3500円昼食付

北欧の会 [樋口俊夫090-6483-7993]

- 1月15日(土) 第19回例会 13時20分
北欧から学びたいこと(スウェーデン)
2月26日(土) 第20回例会 DVD鑑賞
場所：新所沢コミセン別館 他

《 ところフォーラム 》

元気なサークルにもっと支援を！

14期 島川謙二

ところざわ倶楽部を『明るく元気で楽しい、そして豊かな』ものにしたいと前号に書きました。『サークルを主体にした倶楽部にして行こう』という今期の方針なら、元気なサークルには、もっと強力な支援を、まずは財政的な支援をすべきだと思います。(人)

現在のサークルの状況は、スタートしてから毎年会員を増やしているもの、あまり増えずに推移しているもの、おたまじゃくしの会のように脱会したものとなっています。

私は元気なサークルには、例えばメンバーが20人いたら2万円程度支援したらどうか。今期総予算68万円のうちサークル補助費6万7000円は、わずか10%です。(X.X)

サークルに予算の25%ぐらい思い切って支出すべきでしょう。現在の3000円~7000円の『格差』はミミッチーと思います。(へ;)運用規定を理事会で改定して即対応したらどうでしょうか。

『会員のニーズに対応し、元気な、発信力のあるサークル』には多く、停滞サークルにはそれなりに、ダメなサークルには支援をカットするぐらいメリハリの利いた財政施策により、サークルにインセンティブ、刺激を与えることを提言します。(@_@)

1月の花

ダースの会 高橋 三加子

「生け花に じやく頰や 枇杷の花」 賀瑞

1月の花といえどどうしても枇杷の花をあげたくなる。暖冬の昨今とはいえ、空気が冷え、霜や雪の多い12月から1月は本当に寒い。

そんな冬枯れて緑の少なくなった路地や家裏に、人目に立つこともなくひっそりと小さな花群をつけるのが枇杷である。何となく寂しげで地味ではあるが、よく見ると温もりのあるその花の色合いが私を魅きつけるのかも知れない。

大型で長楕円形の葉は厚く、堅い。また、その裏面には淡い褐色の軟毛が生きている。その産毛に似た軟毛を持つ葉に包まれた枝先に、円錐状の黄味をおびた一群の白い花を咲かせる。その花が微かなよい香りを持っていると知ったのは随分後のことだった。

ある初夏のこと、先輩のUさんから枝葉の付いた房状の枇杷が籠いっぱい届いたのである。もともと果物の大好きな私は大感激、その芳香を楽しみ、絵になる様を愛で、そして味を喜んだ。そういう交流は幾度続いたことだろう。

枇杷の実る頃になるとUさんを懐かしく思い出す。そして、その実をつけるため、冬のさ中に寒さに耐えて咲きそめる可憐な枇杷がいとおいしい。

「漢名は枇杷」・「和名は琵琶」果実が楽器の琵琶に似ているのでという説がある。

バラ科常緑高木 10m位。果樹として栽植され栽培種はタナカ、モギ、ノジマワセ、クスノキ等。葉、種子は薬用。果実は生食、花材。中国原産のものが主で、日本には古くから渡来しており奈良、平安時代の文献に見られるという。

むさし野俳句会(十二月) 作品抄

- 枯蓮さても身軽になりしかな 鈴木 征子
- 柿の実や千切る人なく輝けり 岡本 詔一郎
- 臥す母は見るだけとなり晦日蕎麦 岡本 博
- 盛りたる小鹿野歌舞伎やむべの紅 奥富 京子
- 風揺るる梢の透けて冬の星 粕谷 昇
- 晩学の俳句の道や冬木の芽 河瀬 俊彦
- 保育所のクッキーのような干布団 小林 貞夫
- 丁寧に仕付け糸解く春着かな 小林 典子
- 貼り替へて障子の部屋を広くせり 佐藤 英子
- 蕪蓄に産土匂ふ柿すだけ 佐藤 八郎
- 峠道バスも喘ぐや暮れの秋 高梨 千代
- 枝を切り裸一貫冬木立 高橋 三郎
- もたいなやひとり車窓に雪の富士 高橋 泉
- 冬の月屋根に石置く家五軒 田中 溢子
- 墓のごと高層ビルや鳥渡る 利根川 啓一
- 青空に黄金ちりばめ柚子の里 中 泰
- 風のまま細波立ちて鴉潜ぎ 中村 直子
- 悪童のジャンプの先の熟柿かな 平栗 彰子
- 猫塚に白き花咲き冬うらら 前岳 良子
- 誤作動す火災報知機冬の暮 荒幡 千鶴子
- 雲早し皆足早に師走かな 飯泉 陽子
- 冬鳥の羽根を繕ふ舳ひ杭 井出 昇
- 初霜や畝の濃淡頭らかに 海老澤愛之助